

農福連携の発展につながる放課後等デイサービス**ー農福連携に取り組む就労継続支援B型事業所の放課後等デイサービス併設の事例よりー**

○ 広島大学大学院 細川 富美子 (009707)

〔キーワード〕 放課後等デイサービス、農福連携、就労継続支援B型事業所

1. 研究目的

農福連携とは、障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組である。また、担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながる可能性もあり、近年さまざまな形での取組が行われ広がりが見られる。放課後等デイサービスとは、学校教育法に規定する学校（幼稚園・大学は除く）に就学している障害児に対して、放課後や土曜日、夏休み等の長期休暇中において、生活能力向上のための訓練等を継続的に提供することにより、学校教育と相まって障害児の自立を促進するとともに、放課後等における支援を推進するサービスである。放課後児童クラブと異なるのは、利用者の年齢が6歳から18歳（場合によっては20歳）までと幅広い面であり、ここで提供されるサービスは事業所によってさまざまである。

発表者は、第52回中国四国大会（2021年）において『放課後等デイサービスで「はたらく」現場の課題と展望』と題した発表を行い、「調査結果より、農福連携に取り組む就労継続支援B型事業所の放課後等デイサービス併設には、放課後等デイサービス利用者が農業体験できることや利用者の将来の就労につながるなど大きなメリットがある。」と考察した。

本研究では、その後の実践の成果として、農福連携に取り組む就労継続支援B型事業所の放課後等デイサービス併設が、実際に農福連携の発展につながっているのかどうかを調査から考察する。

2. 研究の視点および方法

事例とする放課後等デイサービスは、農福連携に取り組む就労継続支援B型事業所に併設されているが、このような施設は全国的に見ても少ない¹。しかし、この取組には、放課後等デイサービスの利用者が、農業体験等を通じて農業を身近に感じられるという特徴がありメリットであると考えられる。実際に、放課後等デイサービスの利用を終えた後、この事業所の利用者となり農業に従事するケースが出てきている。この利用者に対する聞き取り調査と事業所の現状をもとに、農福連携を推進していく視点から研究を進めている。

¹ 一般財団法人地方自治体公民連携研究財団「農福連携推進事業等の効果等に関する調査報告書」（2017.4）によると、就労継続支援B型事業所で回答のあった数1,476件の内、放課後等デイサービスを併設しているのは15件のみである。

また、農福連携、放課後等デイサービス等について、こども家庭庁、農林水産省、厚生労働省、文部科学省等の資料、および、先行研究についての文献調査を行っている。

3. 倫理的配慮

本研究においては、「日本社会福祉学会研究倫理規定」および「日本社会福祉学会研究倫理規定にもとづく研究ガイドライン」に従い、特に調査協力者に対しては「2.調査研究の実施」の項目に従い、「1.倫理的配慮」を行いながら進めている。また、本研究は、所属機関である広島大学大学院人間社会科学研究科倫理審査委員会の承認（承認番号：HR-HUM-000482，承認日：2022年9月26日）を得ている。なお、本発表に関連して開示すべき利益相反はない。

4. 研究結果

・事例の放課後等デイサービスの特征について

この就労継続支援 B 型事業所が農福連携に取り組んでいることを生かして、放課後等デイサービスの利用者もときどき農業体験として種まき、苗うえ、草取り、収穫などができる。ただし、内容は利用者ができると興味による。このときに、就労継続支援 B 型事業所の利用者と共に作業することもメリットとなっており、多様な経験をし、さまざまな年齢層の人と触れ合える良い機会ともなっている。

・放課後等デイサービスから B 型事業所の利用者になった方への聞き取り・まとめ

①放課後等デイサービスにいた頃の思い出は「畑でジャガイモを植えたり、袋詰めしたり、みんなでジャガイモやタマネギを収穫しておもしろかった。」②事業所で働きたいと思ったのは「高校生になってから畑の仕事をしたいと思うようになった。A 型だとお金は多いが自分には B 型の方が作業をするのには合っていると思い、卒業したら慣れているこの事業所に行こうと思った。高 2 のときに決めた。」③作業については「書くことは苦手だが、それ以外は嫌なことはない。特に出荷が好き。高校の時はお手伝いだけだったけど、お金がもらえるようになって、ある程度自分で使えるお金ができた。自分にはここが合っている。」（2022 年 11 月）

・なお、2023 年には、また 1 人この放課後等デイサービス終了後に B 型事業所の利用者となった方がいて農業に就いている。

5. 考察

農福連携に取り組む就労継続支援 B 型事業所に放課後等デイサービスが併設されていることは、放課後等デイサービス利用者が農業体験できること、利用者の将来の就労につながるなどのメリットがあり、農福連携の発展につながっていることが調査結果から明らかとなった。調査対象とした事例は全国的に見て少ないと言える。しかし、併設されていなくても、近隣に農場がある場合も農業体験は可能である。障害者等が農業分野で活躍することを通じて社会参画を実現できる農福連携を発展させるために、放課後等デイサービスの活動として農業体験を組み込むことは有効であると考えられる。